

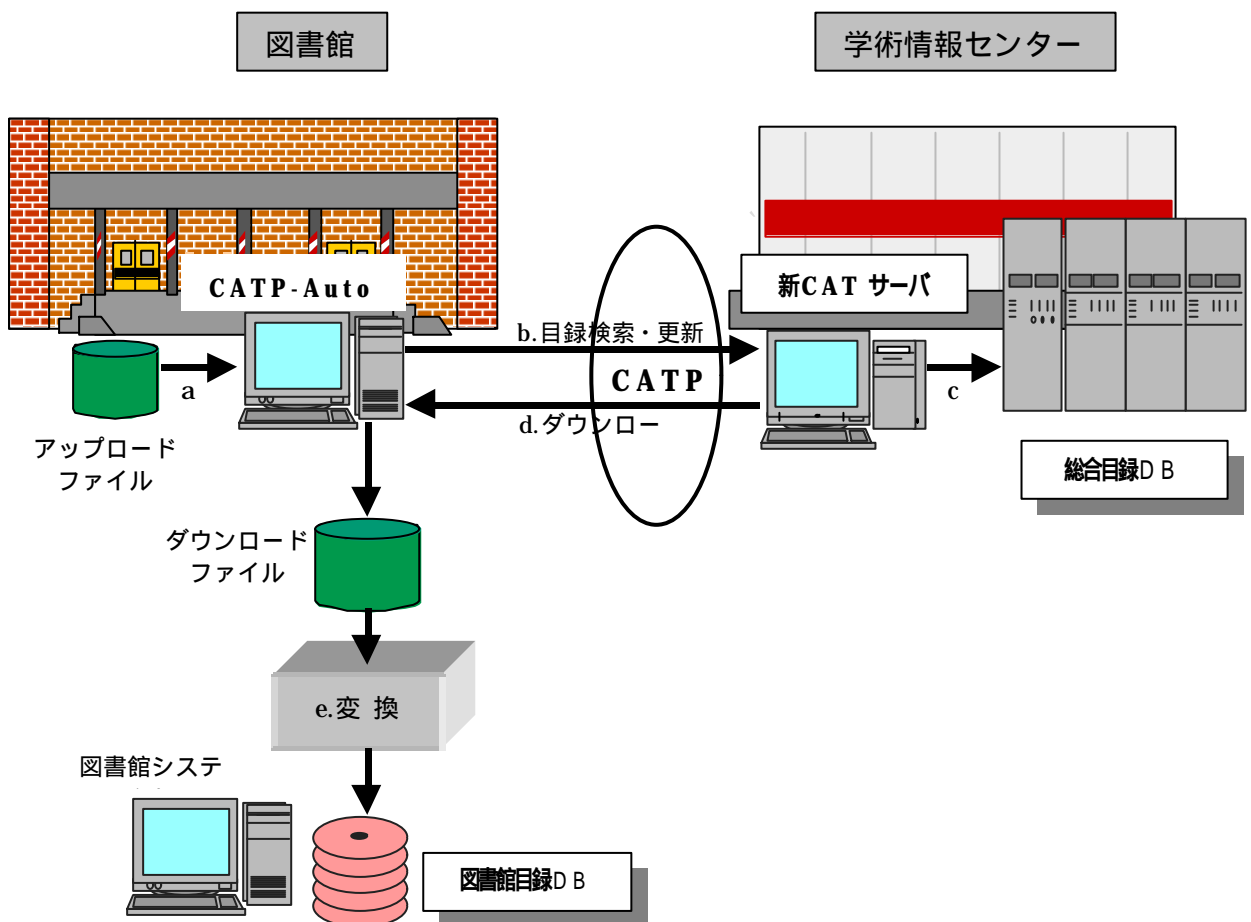
# 1. 機能概要

## CATP - Auto とは何か

CATP-Auto(「キャッピー・オート」と呼びます)は、学術情報センターの新目録所在情報システムプロトコル(CATP)に対応した目録所蔵登録専用のクライアント・ソフトウェアです。CATP-Auto では、ISBN による検索だけでなく、新目録所在情報システムで新たに追加されたフルタイトルキーなど、ISBN 以外の多様な検索キーを活用できるようにすることで、各大学図書館における遡及入力作業の飛躍的な効率化を目指しています。また、CATP-Auto では、自動運転の開始・終了時刻、入力データファイルなどを自由に設定でき、作業の中断箇所をブックマークで管理出来る機能を備えているため、夜間の無人運転等に対応した、柔軟な運用管理が可能です。

さらに、CATP-Auto には、書誌検索を経由せずに、直接所蔵レコードを検索・更新する機能があり、汎用のバッチ所蔵処理クライアントとして、様々な目録関連業務の用途で活用されることが期待されます。

図 1 CATP-Auto 概念図



## CATP-Auto で何ができるか

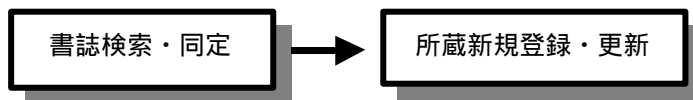
CATP-Auto では、アップロードファイルで指定した蔵書データの検索キー項目により NACSIS-CAT を自動的に検索し、総合目録データベース中に書誌レコードが1件ヒットした場合は、自動的に所蔵データの登録を行います（図1 CATP-Auto 概念図 a,b,c 参照）。同時に、登録した書誌・所蔵データは、パーソナル・コンピュータのハードディスクにダウンロード（図d）されますので、各図書館は、このダウンロードファイルの書誌・所蔵データを変換し(e)、各館の目録データベースの作成等に役立てることができます。

ただし、ダウンロードファイルから各図書館の目録データベースへの変換部分は、CATP-Auto ではサポートしておりませんので、図書館システムの開発メーカーに依頼するなどしてプログラムを作成する必要があります。

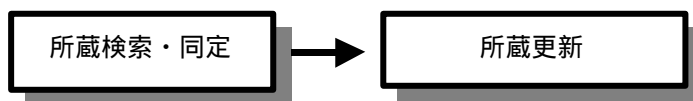
CATP-Auto を使って所蔵データを登録更新する方法には、「書誌ルート」(A)と「所蔵ルート」(B)の二つがあります。「書誌ルート」とは、書誌を検索・同定した後、所蔵データの登録を実行する流れです。一方、書誌の検索・同定を行わずに直接所蔵データを検索し、更新する流れを「所蔵ルート」と呼んでいます。「所蔵ルート」で所蔵レコードを一括処理する場合は、まず所蔵検索・同定処理で該当する所蔵レコードをダウンロードして一括処理用アップロードファイルを作成し、このアップロードファイルを再度 CATP-Auto にかけることにより、実際の所蔵登録・更新を行うという2ステップの処理が必要です（B-2）。

図2 書誌ルートと所蔵ルート

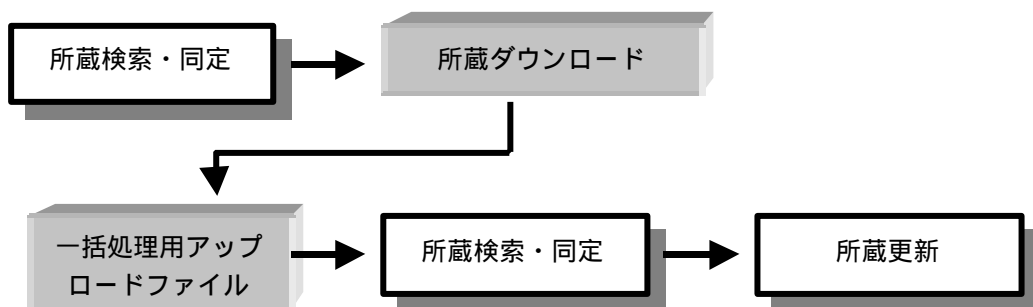
### A. 書誌ルート



### B-1. 所蔵ルート



### B-2. 所蔵ルート（一括処理）



「書誌ルート」の処理では、CATP-Auto を遡及入力に利用するだけでなく、書店に所蔵アップロード用のデータ（ISBN 等）を図書と同時に納品してもらうなどして、新規受入と同時に目録登録作業を済ませるといった利用方法が考えられます。また、「所蔵ルート」では、学術雑誌総合目録全国調査のために、学術情報センターの雑誌所蔵データを一括更新する場合や、図書の管理換等にもなう配置コードの変更などの作業の一括処理など、目録入力作業に関連したさまざまな局面での CATP-Auto の利用が期待できるでしょう。

## CATP - Auto を使うために何が必要か

CATP-Auto を利用するためには、TCP/IP によりインターネット接続されたパーソナル・コンピュータが必要になります。対応する OS はマイクロソフト社の Windows95 のみです。Macintosh や Windows3.1、Unix には対応していません。

## CATP - Auto を利用する上での注意事項

CATP-Auto は、総合目録データベースにヒットしたレコードが親書誌か子書誌か、書誌レコードの Vol フィールドに値が入っているかどうかを判定したり、Vol の文字列を正規化した上でアップロードファイルの内容と比較するといった処理を書誌同定ロジックに組み込むことにより、書誌同定や出版物理単位の特定の精度を高め、登録率を高めるように工夫しています。

しかし、学術情報センターの目録システムは、そもそも CATP-Auto のようにバッチ方式の自動登録処理を前提に作られていないため、誤登録の発生をゼロに抑えることは不可能です。

そのため、CATP-Auto では、自動登録処理の後に担当者が処理結果をチェックできるよう、プルーフファイルを出力する機能があります。同時に ISBN 以外のアップロード用検索キーを設定する場合は、処理対象となる資料群の性格を把握して、適切な検索キーを設定することが重要になります。